

第7回 大井川流砂系総合土砂管理検討管理委員会

議事要旨

日時：令和3年3月19日（金）10：00～12：00

Web 会議

【議事】

1. 本会議の論点
2. 第一版の策定報告とフォローアップ
3. 土砂管理計画の位置づけ
4. 第二版の検討

【議事要旨】

1. 本会議の論点

事務局説明 事務局より、大井川流砂系総合土砂管理計画の本委員会の論点について説明
主な意見等 特になし

2. 第一版の策定報告とフォローアップ

事務局説明 事務局より、第一版で定めた事項とモニタリングの実施状況について説明
主な意見等

- 「モニタリングの実施にあわせ、第一版の目標に対する達成度の評価を実施した方がよい」旨の意見
- 「海水位の上昇など、近年の気象・海象条件の影響等も把握した方がよい」旨の意見
- 「モニタリングについて不定期の実施項目などもあり、どのように実施していくか方針があった方がよい」旨の意見

3. 土砂管理の位置づけ

事務局説明 事務局より、土砂管理の位置づけについて説明
主な意見等 特になし

4. 第二版の検討

事務局説明 事務局より、第二版の検討について説明
主な意見等

(1)インパクトレスポンスフロー図について

- 「河川環境のインパクトレスポンスを示すこと。レスポンスとして、景観や海岸における生物、景観等への影響を加えた方がよい」旨の意見
- 「土砂を流送しやすい河道断面の設定は、河口だけではなく、中～上流

域にも関わるのであれば、対策の記載場所を修正した方がよい」旨の意見

- 「河道領域の掘削によって下流への流出土砂量が減少するという観点を加えた方がよい」旨の意見

(2) モニタリングについて

- 「各関係機関が現状の課題を認識するに至ったモニタリングデータなどを提示いただいた上で、今後の議論を進めることがよい」旨の意見
- 「航空 ALB によって、瀬淵分析や河床材料の判別なども可能となりつつあるため、精度評価を実施しながら新技術の適用を考えていくこともよい」旨の意見

(3) 土砂動態モデルについて

- 「上流域のモデルは、現状のデータが不足する中で、簡易な収支モデルの適用も考えられるものの、将来的に対策などを検討する際には物理モデルが必要である」旨の意見
- 「土砂動態モデルは計画のベースになるモデルであり、今後の対策検討に反映できるよう物理モデルとして当初から骨組みをしっかりとっておき、モニタリングにあわせて徐々に精度向上していく必要がある」旨の意見
- 「下流域のモデルについても、一次元でよいのかなど、常に検証し、モデルの改善に向けて取り組むことがよい」旨の意見

(4) 土砂管理対策について

- 「土砂流送しやすい河道断面を検討するにあたり、河道の区間別に勾配や断面、粒径集団に応じた目標を立てることがよい」旨の意見
- 「土砂流送しやすい河道断面を検討する際、その場の最適解だけでなく、長期的な上下流へ及ぼす影響や上流からの供給量が変化することの影響についても確認が必要である」旨の意見
- 「土砂還元については、河道内の置き土だけではなく、例えばダムの子砂管を活用するような対策も考えていくとよい」旨の意見

以上